



藥研 坪敷十二坪。九重一毛

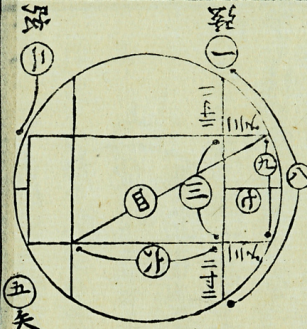
口流九寸九分八リ毛

最徑九寸二分と為弦用

又弦用一得二尺二寸四分

又徑一毛六八又流一毛

求底流一尺。九分二分也



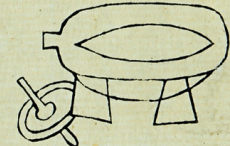
五夫

九十四藥研坪 今七徑九寸二分短徑

二寸二分源志中一七

坪敷何種 又三葉研

色く流口の流と名



短徑一才二分よりお夫長徑九寸二分の弦  
用注矢弦一得二尺九寸二分也

一 一才ハ二内深倍四寸四分と減止余寸。亦六八

二 一才ハ二ト用約股弦得玉要二尺九寸二分也

三 一才ハ四内三と減止余とわまの得八分。六毛七六

四 一才ハ二内短徑二寸二分と減止余一尺二寸八分也

五 一才ハ四内六と減止余とわまの得三寸。六毛七六

六 一才ハ一ト七ト用流矢弦一得二尺三寸四分三分也

九 一才ハ二ト用流矢弦一得二尺九寸二分也 十 七徑九寸二分の弦

短徑一才二分よりお夫長徑九寸二分の弦 十一 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 十二 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 十三 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 十四 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 十五 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 十六 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 十七 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 十八 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 十九 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十一 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十二 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十三 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十四 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十五 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十六 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十七 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十八 一才ハ二内短徑一才二分の弦

又短徑一才二分と減止余とわまの得一才二分也 二十九 一才ハ二内短徑一才二分の弦

半一寸二分よりと糸を定法三編して得十二坪四分也  
右三式もに常式夕非正法且多強く正術ハ口傳り也 右三式もに常式夕非正法且多強く正術ハ口傳り也

九十のり

右切子 四株六合入

方切子 六株六合入

ソハ敷 三株一合入

以好し 粥若田先由淨若

雖若て以器粥 夜三化

粥 日終一通りと三双倍

如九は三圍ハ加減仕よき

たり用ひたり

右切子十二

右 方切子廿七 不足九合

ソハ敷六十八

九拾六益盈朋

今方切子七益とそむ

於一益とろろ 酒と切

子と十二益とろろとむ

三合終又切子と八益

と考り麦粒と三益とろり

酒と方切子と八益と依

不足ありと斗り合たり

又方切子と益と方切子

九益斗酒とそむ於二益斗三合とそむ



傳向



方向



方向

右方切子の中の中方切子八と減 又右方切子の中方切子七加 又右

ソハ敷の内中のソハ敷三と減 益敷の不足ハ不動とて

右二口并合方切子十六方切子十九考り麦粒百廿九 不足一併六合内

初通の方切子七と加 又方切子十二と減 又考り麦粒十一と減又餘

三合と減 方切子二十三 方切子四十七 ソハ敷百十八 不足一併六合 九一組也

是より地安に加減して三組三色三合也 叔右一組の方切子十二

以て其組と割付ると方切子ハ二個二分より考り麦粒ハ二個分

并敷ハ七夕六より以各と中一組の方切子四 考り麦粒ハ二個分

考り麦粒ハ二十二個并敷ハ三合也 以分と中一組と減方切子ハ三

方切子二十三 考り麦粒四十一 并敷六合 是と一組と考り

又右割付と九の一組の方切子廿三 考り麦粒ハ方切子六十一個と考り

九一組の方切子ハ不足也 以のり九一組と中組と并合を引

終り)に三化 然則 方切子二十七 方切子七十九 ソハ敷百八十一

株数二株口合也如以他石以賣切子二十七たより付と兼時方切子六十個。七八ノハ取百四十八個六分株数二株。二タメ以分を今化一紐より減賣切子ハ宜也

△方切子十八二 菅麦取三十二五 株数五百七タメ 是後一紐より又取方切子と後のソハ取兼得七百四十七タメ 又おしノハ取と後の方切子兼得七百四十八二六以内より右を減し止余七分より右法之別は後し株数一おの方切子と兼得八株六合二勺五タメ 又おし株数を後の方切子兼得三計。九合メタ以内より右し株数と減し止余二株三合二勺五タメ右定之ハ右し法除得三市一合をソハ取入株数之又云く帯しノハ取と後の株数兼得一斗六株三合七タメ又列又後しノハ取と帯し株数兼得斗九株八合一タメ以内右し株数ヲ減し止余四株三合二勺五タメ右定之ハ右し法除得三株八合是方切子ハハ株数也

扱二株一合と爲し中しノハ取三益兼得九株三合又云株六合と方切子ハ益兼得二斗七株八合右兼合三斗六株八合決切子八益除知也

九十六之旨

又九十六人 又百六十八人

本引百六人 又百廿四人

左根金七十八 九十二タ

粥 日本引し九根一二二と

兼得十六費二百七十八タ又

別七六と二六除得六タ

右根造月九根と除得十

一費六百廿六タ右者兼合七

又之九根と加一價四十二

費六百二十五タと三紐の

人数二百七十八人除得百又

十五タ又又一人の九根と

知也是も好記て言と知也

九拾六増減法

今根三拾口費七百貳拾目と又工本引

左根ふさし三紐合人数貳百七十八人

別後又時又工を人本扱き人を介

二より半より本扱一人が爲りふさ二人

ハ内二より半トりの横し又又工を紐

し九根十四費七百廿六タ本扱き紐を

九根拾三費。貳拾口爲りふさ一紐を

九根六費九百七拾五タ本扱き紐を又又工

を紐を人扱何程本引を紐を人扱何

程左根ふさき紐を人扱何程と台

九十七之答

本書ニ人教十人と増て好  
おしひ也(不登り也)也  
ゆるり定法好(其也)  
但人教百十六人と好時  
不登り定法好也

粥三日多人数五人と好  
まの三人中より増  
六斗二升と粟得二石八  
斗六升と中下并合  
之石教二千三百六十七石  
八斗六升と内より減止余  
⑤三千三百六十石也又  
別ニ煮石教も内より一石八

九拾七度表法

今上米千六百拾二石六斗中米百八  
九拾七石七斗六升下米千七百六十六石  
五斗は二石と米と足粒六百貳拾六石  
切米は後又時上米と後切り中米ハ一  
人前付六斗八升増て後一石も皆  
後切り下米ハ中米ハ一人前付六斗  
或半増て後又後中米ハ一人前付六斗  
より下米ハそのハ六人前付一石は  
切米不足と上米ハ人教何れ  
中米ハ人教何れ下米ハ人教何れ

斗六升と減止余区四千九百六十八石六斗也又別上より中増六斗八升と倍  
一石斗六升と中より増六斗二升と加一石七斗八升也と増  
半ノ八斗九升と内定差扱煮人教六百十二人ハ是と粟得三百四十  
七石三斗八升と内区四千九百六十八石六斗と加一石六千六百六十八石八  
斗六升と内法 例⑤二千三百六十六石煮人教六百十六人と粟得  
二百。六万三千九百四十石の内減止  
と人前付一石八斗九升と粟得三百六十六石と法の内減止余  
六千六百六十九石八斗六升と内定と除得三百四十人煮人教の内減止  
止余二百十六人煮止米九人教也 又四百人煮好く六斗と減止余  
折半ノ百九十七人ハ中米九人教也増二百。三人ハ下米九人教也  
但此粥二抄の時ハ方後よりゆるり定法好と好一粥と元也  
▲今院中ニ米七十八石三斗大豆百石小豆二十二石八斗麦二十六石  
ハ四色の儀教合六百四十石と倍は但小豆ハ米の儀教の三分  
一麦ハ大豆の儀教の二分一大豆のハ米のハ米の儀教付て三  
升六合少一各儀教と倍のハと倍



代帳六十五分と知るなり終て各事取と知也  
但百好の内不く此の如く好とお更い事い事あることにて  
公とすやうにすこと此書と持せせしめ候也又定法と好感又  
曲尺と外一お教と増減し好いこと候とこととん念候事  
よと秘ちある也又さう丸好不成く丸好と丸好と云々也  
其不変一好況並也

今約股強し白三尺並は小段取之申く内約股と尺幕と概止余  
積六百両也也股と台 言曰股四尺と云 又股三尺と寸と云  
右く通不盡法と丸好と云を得事也 同云右く好と為則丸好

難い何との尺と言哉 言曰お擔をいぬる事と好と云ん  
右二申く初曰 好積と倍て得事申 別約三尺と自案得九百両と云ん内候  
止未百両と八因くと得八百両と云又約幕の内より減止余百両と云ん  
尺幕法に除得二尺と云と約三尺と云 加四尺に四除之得二尺也此等と約加  
言合 約三尺 約四尺 お事六百両と尺幕減止余百両と云 約三尺 お因事八百両と尺幕  
減止事

九十九之旨

本書ハ教ニ也不足也  
好丸事法と云其一也今教  
也不足也候好丸事法  
と云並也

九拾九 外股直

今外股直と云は是を往も中と云  
加て十万。〇。二拾一と云んは  
何廻何程とわたり候と書之何程

今外股直一担二程と申一  
加て各十万。四百十八個と程廻と書之と云

言曰 三十七程 三十七回 廻教三百七十八万二千四百三十個

初曰好教は自一個減止余十万。千四百十七個約事之の定一と云帯程  
等之法に除也但帯程ハ申く程ハ見て案定と候也 細況ノ云並

約事之積入万。七百。八個と分と考 △右三十と云再自案ノ二万  
七千と云り候之 又帯程一と云と云三十三案得四十六後實減之  
止未二万三千六百十三個と分と云 〇二と云七と云三柄約  
と云得二万三千六百十三個と分と云減之 又帯程一と云と云七と云  
得千個。〇。八分と云案減之拂て初末各三十七個ハ程廻ノ教也





いへやハ粥と云ふ人  
あひより後人といは  
れりまふなるものか  
うれま一公の かん  
事と云くくしてあれ  
うら利と云ふ人と  
のありひり事り  
たうべ夫のあり  
どうけく形欲と云  
物毎のけとといひ  
かうと云ふ人  
ゆりりか  
かぬやうと云ふ  
と色いぬと云ふ今  
ゆるすてきと云

愚書ハ市蜜歳より今と事と  
多くす市蜜家法と云  
之好いと云則あや廻ら寡  
かんと名付く家法銀鏡抄  
と云り 室よ来哲乃見笑  
かき進て色也余進て  
市よひと云云勸乃か  
るあふ自然と教義の  
疑ふ一助有らんれと  
乃銀鏡かんり

奥列女達那二本松と伝

磯村社と清村台徳誌

賦と云ふはあひい  
る子歌と云ふあり  
あはれと今のを  
能く賢く家といは  
能く人らひり  
あまうと云ふ  
あまうと云ふ事也  
極と云ふりあり  
及動者よまづ  
人にあまきと云  
又此智賢極下戸  
因果ハ是性  
燈念ハ是性  
疑乃飛るは  
さうひの人故

ろひよる家及よありしとてうへへては是の處に終つてと  
 としげくしん次でおぼく心持なり一先南嶺夜獨りとの  
 吹身へあそそひと一たり九を散度重々して合不台と  
 誠心書乃そくくくやうよと心けくさ道とそそり  
 人よまらしてそくくんとと情とそくくくくくくく  
 さわと太の處と合ひてまるとひくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 して自他とちんまんてへ一なり乃ち口乃くせと  
 ありてハ安見一乃樹古とつとつとつとつとつと  
 又昇年とそくくくくくくくくくくくくくくく  
 口業ハ業名或ハ説法の所修なり思く紙練し終る  
 肉よ考あそとのつとつとつとつとつとつとつと  
 不他よまらまん車口とそくくくくくくくくくく  
 と知して心乃工支肝終也此より去らまは小石のちも  
 ませて救いま家つとつとつとつとつとつとつと

是て指合陰付くはと本をよせり毎と見一たりきん三目  
 ふよひくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 おえして不他へけんどう也を極見の早の元三の不他とそ  
 く家又支るまへん付て乃後よ若号必事なり一也地か  
 後よゆらくくくくくくくくくくくくくくくく  
 業家將名念佛乃くくくくくくくくくくくくく  
 して二支考勤の自かき極なりとそくくくくく  
 の三支の教外別傳不支支家の元三自かの修なり是を  
 あり事なりわくけはとそくくくくくくくくくく  
 少ていつとそくくくくくくくくくくくくくく  
 心どのうとせんとあひまうくくくくくくくくく  
 又を極又叶ひくくくくくくくくくくくくくく  
 よかなくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 目のふくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 家知よ及そ不及そ理不そよまあはくくくくく

増訂 疑抄

乃よと元元の一ハ... 用とわらう... 是と又可也... 之まも... 小多の... 本... 是... 約... 後...

貞享元 元甲子 曆孟冬吉日  
文化元 甲子年 孟冬再刻

京都書林

長村半兵衛

丁一四

